

# まほろば



2024  
第240号

## 新年のご挨拶



明けましておめでとうございます。

2024年の幕開けとなりました。2022年の4月に開院した当弘前総合医療センターも満2歳となります。この間、コロナ禍に翻弄され救急医療が円滑に行えないこともありました。また、いざ運営を開始すると想定通りにいかない状況や想定外の問題が生じることも少なくはありませんでした。しかし、総体的には運営が滞るほどの事態には遭遇せず2年間を無事に終えることができたと思います。これも職員一同の努力とともに地域の施設の皆様の多大なるご協力の賜と考えております。

この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

3年目の今年は、さらなる病院機能の拡充を目指して以下のような変革に取り組むこととなります。

まず4月から始まる働き方改革に対しては、中核病院としての機能や住民への医療サービスを損なわないことを前提に、業務の効率化、タスクシフト・タスクシェアの積極的導入、病院機能の充実を図るための職員確保、院内システムの改革など様々な対策を講じているところです。

タスクシェアの一つとしては、医師業務の一部を代行できる特定行為看護師の育成を開始します。4月から指定研修機関となり、自院のみならず地域医療機関の看護教育に貢献したいと考えています。さらに看護部門に関して、定員増による7対1の看護体制も本格的に移動します。より多くの患者さんを迎え入れ、住民へのサービスの増大を図れると期待しています。

また当院の有する地域医療支援病院や臨床研修病院の役割を一層強化するために、今秋には病院機能評価を受審することとしています。それを機にさらに充実し整備された機能を有する病院へ一回り発展することを企図しています。

開院3年目を迎える本年、当院が地域医療へのさらなる貢献を果たせますように、地域の施設の皆様との密なる連携を維持していきたいと考えております。

本年もご指導ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

院長：大熊 洋揮



# 令和5年度 Q C活動 グループ優秀賞受賞

東5階病棟 Q C「We are hanasaka (はなさか) ナース」

(市川莉沙、川元真澄、水木珠菜、工藤みや子)



Q C活動「挨拶運動」では病棟全体での挨拶が増え、コミュニケーションを通して相手のことを思いやる、気配りをする等、よりよい雰囲気作りを意識するようになりました。病棟看護師間だけではなく、他職種との連携も以前よりスムーズになったと思います。また、看護学生に対しても積極的に挨拶や言葉がけをするようになり、「実習が楽しかった」といった感想も頂いております。今回取り組んだQ C活動が表彰され、驚きとうれしさでいっぱいです。現在も、朝のミーティング時に挨拶の標語を全員で復唱し、業務を開始しています。今後は、病院全体に「挨拶の輪」が広がるような取り組みをしていきたいと思っています。

グループ優秀賞おめでとうございます。一緒に頑張りましょう！という気持ちが今回のQ C活動から感じ取れました。(看護部長 鈴木)

## 看護の誓い式



1年の暦のなかで“事始め”に適していると言われている「天赦日」と「大安」が重なる日の10月17日に、本校の講堂にて71回生の『看護の誓い式』を執り行いました。今年度の式典は、3年ぶりに全学年の上級生も参加することができ、来賓の皆様を招待し多くの方々に見守られながら、ナイチンゲール像の看護の心のキャンドルから灯を受け取り、看護の道を歩み続ける決意を新たにすることができました。

学校長 大熊先生の式辞では『一つ一つの知識と経験を積み上げることが必要であり、そのためのたゆまぬ努力と研鑽を決して惜しんではいけない』とお言葉をいただきました。

諦めずに立ち向かおうと励ましてくれるDREAMS COME TRUEの「何度でも」を1学年で合唱しました。この曲を選曲した理由である、たくさんの人を勇気づけ、たくさんの人が前を向けるようになるような看護をしたいという思いを持ち続け、今日の、喜びや感動を胸に刻み、一人一人が私の目指す看護ができるように多くの知識と経験を積み重ね、臨地実習で理想とする看護師と出会い看護観を深めてほしいと願っています。



看護学校 教員：三上 杏奈

# 防火訓練



令和5年10月16日、弘前総合医療センターにおいて消防訓練が行われました。

今回、出火場所が新棟2階の食器洗浄室のため、病院栄養士と給食委託職員が初期消火に参加しました。通報を受けてから各フロアに配置してある消火器を火災現場

まで運び、消火器使用後に屋内消火栓での模擬消火を体験しました。屋内消火栓からホースを取り出して訓練することが初めてのため緊張感がありましたが、実際に火災が発生した時の行動を確認することができました。

その他に避難誘導にも加わり、避難後には病院駐車場にて、弘前消防隊による負傷者の救急搬送や、はしご車と消防車による放水訓練を見学しました。特に救急搬送については、ほぼ毎日のように当院に救急車が来ていることから、関係機関との相互連携についても考える機会となりました。今後も積極的に訓練に参加し、緊急時には的確な判断と行動ができるようスタッフ一同、取り組みたいと思います。

栄養管理室：中田 育美



## 『北東北国立病院医療研究会 第22回研究発表会』

2023年11月10日、「北東北国立病院医療研究会 第22回研究発表会」が弘前総合医療センター大会議室とWebのハイブリッドで開催されました。

全体で53演題の応募があり、口演発表ではCase share conferenceとして4名の初期臨床研修医の先生方による症例発表が行われました。本セッションの目的は救急症例を中心にお互いの経験を共有することであり、さらに各診療科間の連携、各専門分野における緊急性の高い症候 / 診断に関する知見を深める場として特に重点化しているものです。指導された先生方の協力に感謝申し上げますと同時に、研修医の



先生方のますますの御活躍を期待してやみません。

また在宅医療や、連携室、看護部、リハビリテーション部門、薬剤部を含めた多職種間の情報共有の場として、また、日々の診療を多角的に捉え、改善すべき点について議論する場としても重要であり、今後もより精力的に活動、継続して参る所存です。

ご協力、ご理解の程よろしく御願います。

臨床研究部長 臨床研修管理委員長：石黒 陽

# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (令和6年1月1日～)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
呼吸器内科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
消化器内科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
血液内科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
糖尿病・内分泌内科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
小児科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
消化器外科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
呼吸器外科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
乳腺外科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
形成外科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
脳神経内科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
脳神経外科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
皮膚科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
泌尿器科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
産婦人科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
眼科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
耳鼻咽喉科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
整形外科・リハビリテーション科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
救急科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
歯科口腔外科	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
放射線科	午前	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美
特殊外来(予約)	午後	加藤 藤 武 岩 間 拓 史 加 藤 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	石 間 嘉 史 岩 間 拓 武 加 木 藤 武 花 木 田 賢 二	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美	山 中 重 矢 子 人 太 鏡 之 彦 字 德 美 松 木 明 彦 相 穂 原 智 直 之 樹 吾 陽 美

※ 血液内科は、水曜日は再診のみ  
 ※ 産婦人科は、第1・第3火曜日となります。  
 ※ 未熟児フォロー外来、慢性外来、神経外来は医師が交代で担当します。  
 ※ 呼吸器科は、いずれかの医師の診察となります。  
 ※ 乳腺外来は、原則予約患者のみ。当日急ぐ場合は応相談。  
 ※ 形成外科は、第1・第3・第5金曜日は要予約。  
 ※ 木村医師の診察は13時～16時です。  
 ※ 橋村医師・小笠原医師の診察は13時30分～16時です。  
 ※ 毎週火曜日より毎月第3金曜日は是川医師が不在となります。  
 ※ 毎週水曜日は中島医師が不在となります。  
 ※ 産婦人科は11時30分から12時です。  
 ※ 眼科の診察は9時30分から診察は行いません。  
 ※ 耳鼻咽喉科は、水曜日の外来診察は行いません。  
 ※ リハビリテーション科は、水曜日は藤田医師、松田医師が交代で診察、木曜日は整形外科医師の診察となります。  
 ※ 女性外来は第1・第3水曜日の午後です。  
 ※ セカンドオピニオン外来は第2・第4木曜日の14時～16時です。

**患者相談窓口** 『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

**お知らせ** 編集委員会より 当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して進む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。